

## 2013年第1回日本地球化学会評議員会議事録

日時: 2013年2月9日(土)12:00-16:45

場所: JAMSTEC東京事務所

出席者: 吉田会長、山本副会長、清水監事(オブザーバー参加)、板井、植松、小畑、折橋、佐野、下田、高橋、谷水、角皆、原田、日高、平田、益田、丸岡、南、塚本、横山、豊田の各評議員

欠席者: 岩森、川幡、谷本評議員

### 1. 審議事項

#### 1.1. 第3回および第4回評議員会議事録の確認

#### 1.2. 2013年度各種委員会委員長の委嘱

学会賞等選考委員長および鳥居基金委員長が承認された。

#### 1.3. 地球惑星連合大会プログラム委員の承認

2013年度委員として横山哲也、小畑元、下田玄の各会員が承認された。

#### 1.4. 役員選挙について

2013年度選挙管理委員として高橋評議員および谷水評議員が選出された。

#### 1.5. 国際文献社との2013年度契約

学会業務委託契約は2012年度と同じ内容、ホームページ制作業務委託契約は更新作業・運用費が1000円/月増額となる以外は2012年度と同じ内容、年会関連業務委託契約は2012年度と同じ内容とすることが承認された。なお、年会関連業務委託契約の仕様の詳細(年会ホームページ等)については、昨年の九大LOCから出た意見を踏まえて国際文献と交渉し、必要があれば追加の必要経費を学会から支払う。

#### 1.6. 2013年(第60回)年会について

丸岡評議員(LOC野尻委員長の代理)による日程、会場、準備状況についての報告の後、以下を審議、決定した。(1)本年会では日本鉱物科学会との共同開催という特色を既に掲げていることから、特に60回記念行事は行わず、来年の第61回年会で学会設立60周年の記念行事を行う。(2)学生発表賞を今年も設定し、評議員が審査を行う。(3)つくばLOC提案の、J-Stageで公開された個々の要旨を日単位でまとめて年会HPで全文公開する件は承認するが、鉱物科学会との共通セッションにおける鉱物科学会会員の要旨の取り扱い(特許に関わる公開ポリシー)に留意するとともに、これを今後の年会の前例とはしない。(4)年会前日に鉱物科学会と共催するショートコースに参加する鉱物科学会の学生会員の参加料金は本会学生会員と同額にする。

#### 1.7. 年会への外国人研究者招聘について

2012年の年会で実現しなかった中国鉱物岩石地球化学会の劉会長の特別講演を2013年に実施すること、講演内容をGJにinvited reviewまたはArticlesとして投稿してもらうことが幹事会から提案され、承認された。今後、海外の学会との人的交流を進める上で年会への外国人研究者の招聘や講演依頼は望ましいが、定期的に行うかどうか(国際賞の創設を含む)、経費(旅費等)支出の方法などについて平田企画幹事を中心に検討を進めることとした。

## 1.8. 学術会議の大型研究計画について

日本学術会議が進める「学術の大型研究計画マスタープラン」の提案募集(募集期間:2月15日から3月末まで)に対する本会の対応が審議され、以下の方針が決定された。

- (1) 日本地球惑星科学連合(JpGU)の全セクションを対象分野とする本会の特色を活かし、本会単独で提案する。
- (2) 形式上の提案者は会長となるが、実質的な責任者としては本会の若手リーダーが望ましく、高橋嘉夫会員を推薦する。ただし研究対象分野が広範囲にわたるので、高橋会員が必要に応じて会長、副会長を含む数名の会員と協同して課題名、提案内容を検討する。

## 1.9. 法人化について

Goldschmidt(GC)2016日本開催時の運営上、法人化が有益ではないかとの益田GC幹事の提案に対する幹事会による以下の検討結果が報告され、承認された。

- ・法人化にかかる経費(今後見積もりを依頼する)や弁護士相談費用などが高額になりそう
- ・GC2016の寄付件数や金額はそれほど多くなるのではないかとこの予測がある。さらに、JpGUまたは日本政府観光局(JNTO)を経由して集めても不都合は発生しないと思われる
- ・事務が煩雑になる。たとえば今年法人化する場合には役員選挙後に理事名簿を作成する必要がある。

## 1.10. GC2016について

益田準備委員会委員長から準備状況が報告された。準備委員会運営要綱(案)における、本会が関わる条項が承認された。また、会場の予約金(6月末が支払い期限)を本会から借入れたいとの申し入れがあり、承認された。本会の会計から貸し出す方向で動くが、貸し出しの予算上の項目はGoldschmidt基金の枠を含め、会計幹事が検討する。また、他に無利子で借りられる資金も検討すべきとの意見が出された。

## 1.11. テラパブからの要望について

テラパブ押田氏よりGJの販売促進を目的として要請された以下2点が承認された。

- (1) Geochemical Society(米国地球化学会)発行のElements誌でのGJの広告掲載
- (2) 今年のGoldschmidt会議で参加者に配布される資料にGJのパンフレット・チラシを差し込むこと

## 2. 報告事項等

### 2.1. 庶務(豊田幹事)

#### 2.1.1. メール審議(括弧内は審議期間)

- ・役員選出細則改正について(2012/9/15-22):2012年9月12日総会で議決された会則改正(副会長2人制)に伴う役員選出細則の改正が承認された。
- ・Goldschmidt Conference(GC)担当幹事新設について(10/14-21):毎年のGCの運営に対して地球化学会としての対応を担当するGC担当幹事に益田晴恵評議員を充てる件について、承認された。毎年のGC運営のうち会長が担当してきた部分について担当し、適宜会長がフォローアップする。
- ・学会賞等選考委員、鳥居基金委員の選挙(12/22-29):学会賞等選考委員(任期2年)3名および鳥居基金

委員(任期3年)1名がそれぞれ改選された。

- ・金沢大学「微弱放射能測定を利用する先導的共同研究拠点」形成の要望書について(2013/1/10-14):山本政儀会員より、標記拠点形成を文部科学省に申請するにあたり、日本地球化学会からの要望書提出の依頼があった。異論なく、承認。植松、高橋評議員からは積極的に支援すべきとの意見が寄せられた。要望書を山本会員に送付した(1/18)。

#### 2.1.2. 幹事会

- ・2012年第4回幹事会(12月22日(土)12:40-17:00、JAMSTEC東京事務所)

出席者:吉田会長、山本副会長、冨本・GJ編集委員長、高橋・和文誌編集委員長(13:00退席)、川幡(14:00から出席)、原田、平田、南、豊田の各幹事、欠席者:益田(GC担当)幹事、下田幹事  
日本学術会議の大型研究計画公募への本会の対応や、法人化等について審議した。

- ・2013年第4回幹事会(2013年2月2日(土)13:00-16:15、JAMSTEC東京事務所)

出席者:吉田会長、山本副会長、冨本・GJ編集委員長、高橋・和文誌編集委員長、川幡、下田、原田、平田、益田、南、豊田の各幹事、野尻幸宏会員(オブザーバー、15:50より出席)  
第3回評議員会の議案整理および2013年年会についての審議を行った。

#### 2.1.3. 本会管理著作物複写使用料に関する契約について

学術著作権協会(JAC)との間で、GJ、地球化学、および年会要旨集の複写使用料の代理徴収に関する権利委託契約を交わした(1/24)。なお、契約締結後にJACから「複写権等委託済表示」を出版物に付記してほしいとの依頼があったが、その必要はないとの幹事会の判断が了承された。

#### 2.1.4. 協賛、共催予定

- ・第19回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会(2013年6月13-14日、主催:日本地下水学会ほか、京都大学、後援)
- ・第50回アイソトープ・放射線研究発表会(2013年7月3-5日、東京大学、主催:日本アイソトープ協会、共催、村松康行会員を運営委員として派遣)
- ・第1回レーザーワークショップ(2013年9月4日、主催:レーザー分光分析研究会、幕張メッセ、協賛)

#### 2.1.5. 推薦・調査依頼

- ・日本学術会議アンケート「新公益法人法への対応および学協会の機能強化のための学術団体調査票」(10/17提出)
- ・(独)大学評価・学位授与機構の機関別認証評価委員会専門委員候補者:蒲生俊敬会員、中野孝教会員の2名を推薦(10/25)

#### 2.1.6. 2013年年会の後処理関連

昨年は九大LOGが要旨集印刷を国際文献に発注しなかったため、残部が国際文献になく、2件の購入申し込みには庶務が対応し、販売した(9、10月)。要旨集をJSTへ1部(LOGが送付)、日本化学会(庶務が送付、1部は国会図書館用)へ2部寄贈した。

#### 2.1.7. 広告

- ・PTT株式会社より広告や年会出展ブースなどに関する質問が寄せられ、「地球化学」2012年第4号への広告掲載を受け付けた(2012年11月)。

- ・2012年広告掲載(HP含む)企業に請求書と2013年広告案内を送付(1月)。広告案内は、2012年の年会での出展企業にも送付した(1/21)。
- ・和文誌第4号に掲載予定だったSIサイエンスの広告が掲載もれ(電算印刷のミス)。学会および電算印刷からそれぞれ謝罪し、当該号の広告料は請求しないことで了承を得た(1/21)。
- ・和文誌広告掲載申込は1/29現在、三愛科学(1, 3号)、サーモフィッシャー(1-4号)の2件
- ・2012年の和文誌が広告掲載企業に送付されていなかったことが判明し、謝罪文と広告掲載号を各社に送付した(1/23)。原因は、和文誌の送付体制が2系統となっていること(会員へは電算印刷から、広告主へは国際文献から)を庶務幹事がよく理解していなかったため。今後はすべて電算印刷から送付することとする。
- ・広告の勧誘、問い合わせ対応の業務は庶務幹事の大きな負担となっているので、他幹事への移管、幹事新設などの仕組みを検討していただきたい(2012年第1回幹事会にて提案したが保留となっている)。

#### 2.1.8. H25年度科研費(研究成果公開促進費)応募

- ・「国際情報発信強化(B)」に、「日本地球化学会発行国際科学誌による国際情報発信強化」としてGJのオープンアクセス経費の助成を申請(11/13)
- ・「研究成果公开发表(B)」に、2013年年会にて予定している市民講演会「東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質汚染」(副題:地球化学から知るその状況と今後の対応)の経費助成を申請(11/13)

#### 2.1.9. H24年度科研費(研究成果公開促進費)事務

- ・状況報告書(助成を受けるVol.47No.1が未発行のため)および連絡先登録票(学会所在地が変更となったため)を日本学術振興会に提出(1/17)
- ・実績報告書はVol.47No.1発行後に提出予定(5/31締切)
- ・テラパブよりGJ(Vol46 No.2-6)の請求書受領。学会HP広告費、学会への納付金(2012覚書参照)を差し引き¥3,361,674円。うち270万円を科研費で支出予定。

#### 2.1.10. 学会賞・鳥居基金応募状況

1月31日の締切(消印有効)に対し、学会賞2件、功労賞1件、奨励賞5件の応募と、鳥居基金の国内研究集会3件、海外渡航1件の応募があった。学会賞は第2回評議員会(6月)までに、鳥居基金は3月末までに各委員会にて選考予定。

#### 2.1.11. その他

- ・公益社団法人日本地球惑星科学連合(JpGU)第7回学協会長会議(2012年10月2日(火)13:30-15:30 東大地震研、庶務幹事が代理出席)
- ・年会要旨集およびGJに掲載された要旨または論文(各1件)の転載許可依頼が来たので対応した(10月)
- ・「地球と宇宙の化学事典」(朝倉書店)の印税と編集料については、多くの学会員執筆者及び編集委員には学会に寄付してもらうこととなっている(50~100万円の範囲、編集代表 蒲生俊敬会員による)。朝倉書店との出版契約証書および編集料支払契約書の取り交わしは蒲生会員の名前(単記名)で契約された(10月)。
- ・和文誌の残部の保管方針について:現在、和文誌の残部20-30冊が電算印刷から国際文献に送られ、年度途中から入会した会員への送付などに利用された後、保管されている。一方、2012年10月に学会がテラパブと交わした契約では和文誌・GJのバックナンバーの販売・保管はテラパブが行うことになっている。学会保管分(5冊)以外はテラパブでよいようにも思われるが、運用上問題がないかどうか今後要検討。

## 2.2. GJ(塚本編集委員長)

### 2.2.1. 発行・編集状況

2012年 vol. 46, No. 6 は12月に発行された。1月1日現在の投稿数は149報、うち受理40、却下58、審査中51となっている。特集号は第57回年会「南太平洋-パタゴニア地域の地球化学総合研究」に基づく特集号(東大・折橋会員)、第58回年会「水圏環境地球化学-佐竹洋先生記念シンポジウム」に基づく特集号(富山大・張会員)、Goldschmidt 2013”Refractory Grains, Volatiles, and Organic Molecules Inherited from the Interstellar Medium”に基づく特集号(Lydie Bonal, Shogo Tachibana, Henner Busemann)を予定している。

### 2.2.2. その他

Geochemical Awards 2013受賞候補者の選考が終了した。受賞者選考委員会に推薦予定。

## 2.3. 和文誌「地球化学」(高橋編集委員長)

### 2.3.1. 2013年の主な編集方針

No. 1より表紙を刷新、No. 3を60周年記念号とする予定。2014年より編集長交代を予定しており、新編集長の選任と引き継ぎを行う。

### 2.3.2. 発刊予定

【2013年Vol.47, No.1】企画総説「地球化学の最前線」:小栗一将、堆積物-水境界における現場測定技術の最前線、報文:遠藤亮、玉村修司、大味泰、金子勝比古、五十嵐敏文、北海道幌延町周辺の帯水層の堆積環境と地下水中のリグニン濃度・有機物のC/N比、博士論文抄録:金子雅紀、カスカディア縁辺域付加帯における有機物の起源と微生物バイオマーカー

【2013年Vol.47, No.3】二部構成とし、(1)地球化学のこれまでの歩みを振り返り、若手を激励する記事、(2)30年後である2043年の仮想的本誌「=「地球化学」Vol. 77」を作成し、そこに掲載するオリジナル論文・総説論文を集める(執筆者に30年後になりきって頂き、その時の論文として、仮想的に記事を書いて頂く)予定。執筆予定者(敬称略)は(1):和田英太郎、野津憲治、杉崎隆一、長沢宏、海老原充、(2):鳥海光弘、丸山茂徳、田中剛、蒲生俊敬、荒井章司、加藤学、植松光夫。

### 2.3.4. 掲載予定記事の編集状況

報文審査中2件、投稿総説論文審査中1件。企画総説「地球化学の最前線」は、宮原正明(東北大学)「隕石中に存在する高圧鉱物の生成メカニズム」、高橋淳一(NTT研究所)「アミノ酸および有機分子の光学異性の最前線」を予定。

## 2.4. 企画(平田幹事)

### 2.4.1. 日本地球惑星科学連合(JpGU)大会

5月19(日)~25日(金)に幕張メッセにて開催される。現在、参加申し込みおよび要旨投稿受付中(早期投稿:2/3終了、最終〆切:2/15(金))。

### 2.4.2. 2013年ゴールドシュミット国際会議

8月25-30日にイタリア・フィレンツェにて開催される。地球化学会として協賛金を支援する予定。日本地球化学会会員は登録費割引があるかどうかを確認中。学会公式ホームページ(home)には日本地球化学会

のロゴは掲載されていない(注)。要旨投稿×切は4月12日(金)、早期参加登録×切は6月25日(最終×切は7月の予定)。

(注): GSJロゴはGC2013 ホームページのトップページではないが、以下に掲示されている。

<http://goldschmidt.info/2013/sponsorsView>

#### 2.4.3. 日本地球化学会第60回年会

9月11日(水)～13日(金)に筑波大学にて開催される。実行委員長は野尻幸宏会員。日本鉱物科学会との共同開催。鉱物科学会との共通セッション(4つ: 今年は公募なし)と、学会基盤セッション(2月中旬以降に公募予定)から構成される。今年も学生発表賞(口頭、ポスター)を授与する予定であり、評議員の皆様には審査をお願いしたい。なお、日本質量分析学会討論会(実行委員長: 長尾(東大))が9月10日(火)～12日(木)に筑波エポカルにて開催される。日程は未定だが、同位体・無機質量分析計関係の1日セッションが計画されており、プログラム等の重複に注意が必要。連絡をとりながらプログラムを編成したい。

年会前日(9月10日(火))にショートコースを開催予定。年会が日本地球化学会と日本鉱物科学会との共同開催であることから、ショートコースの講師は両学会からそれぞれ2名推薦いただいた(地球化学会推薦: 岩森(東工大)、大河内(JAMSTEC)、鉱物科学会推薦: 橋(北大)、井上(愛媛大)の各会員)。ノウハウ関係の講演は、丸岡委員の推薦によりThomas Parkner氏(筑波大学)に決定。現在、日本鉱物科学会と学生会員の割引等について議論中。連合大会を通じて宣伝する予定。

#### 2.5. 広報(原田幹事)

##### 2.5.1. 学会ホームページ

1月4日からトップページを改訂、今後徐々にマイナーチェンジ予定。年会HPの改訂にも着手。

##### 2.5.2. JpGU大会、GC2013

JpGU大会での展示ブースは昨年と同じ場所(1階奥)で申込み済み。GC2013は展示ブース申込み準備中、ノベルティとして昨年同様のボールペンかGC2016日本開催の宣伝入り名刺サイズの複数年カレンダーを検討している。

#### 2.6. 会計(南幹事)

2012年度会計の決算作業中。印刷費、発送費、行事費が予算超過したが、委員会活動費、会員業務委託費は予算を下回り、広告料収入は堅調であった。

#### 2.7. 会員(下田幹事)

9月から12月までの会勢は以下の通り。除名者の中には単なる会費納入忘れの会員も含まれているようなので、引き続き会員となってもらうよう評議員からも働きかけてほしい。

日本地球化学会会員数(2012年12月31日)

会員種別	人数	契約口数	GJ冊子希望	GJ冊子不要
一般正会員	709		284	425
学生正会員	129		69	60
うち、学生パック	(56)		(31)	(25)
シニア正会員	58		29	29

賛助会員	10	10	9	1
名誉会員	11		6	5
合 計	917		397	520
(寄贈)			17	
(GJ発送総数)			414	

## 会員異動(2012/5/1～2012/8/31)

## 【入会】

(9月)

会員番号	会員名	会員種別
9282841	神林 翔太	学生パック

(10月)

9282842	栗本 宜孝	正会員
---------	-------	-----

(11月)

なし

(12月)

なし

## 【退会】

(9月)

なし

(10月)

なし

(11月)

なし

(12月)

会員番号	会員名	会員種別
0280916	増田 宣泰	一般正会員
0282088	山本 温彦	一般正会員
1280607	高松 武次郎	一般正会員
1281350	雁沢 好博	一般正会員
1282252	鈴木 崇史	一般正会員
3281743	長谷川 浩	一般正会員
4281553	三島 康史	一般正会員
5281998	大塚 良仁	一般正会員
5282232	原 和敬	一般正会員
7280326	宮本 正道	一般正会員
7280876	山崎 正夫	一般正会員
8281629	藤巻 宏和	一般正会員
9282343	長久保 定雄	一般正会員
9282505	星野 美保子	一般正会員
9282508	松岡 かおり	一般正会員

9282652	JO,HYUN-JA	一般正会員
9282698	有山 薫	一般正会員
9282701	村井 彰宏	一般正会員
9282507	小泉 早苗	学生正会員
9282589	萩原 崇史	学生正会員
9282621	佐藤 晋太郎	学生正会員
9282630	長島 加奈	学生正会員
9282675	ヴ ティ ジュウ フオン	学生正会員
9282695	片山 樹里	学生正会員
9282703	佐野 和広	学生正会員
9282790	木本 洋	学生正会員
9282769	藤原 将智	学生パック
0280057	藤原 鎮男	シニア正会員
1280094	樋口 英雄	シニア正会員
8280590	多賀 光彦	シニア正会員

## 【除名】

(9月)	なし
(10月)	なし
(11月)	なし
(12月)	

会員番号	会員名	会員種別
0282107	前田 泰延	学 生
9282470	山崎 秀策	学 生
9282514	中川 裕介	学 生
9282524	林 和樹	学 生
9282547	森下 和彦	学 生
9282559	江里口 和隆	学 生
9282561	飯野 倫裕	学 生
9282564	伊佐 純子	学 生
9282571	平松 裕亮	学 生
9282587	杉本 雅明	学 生
0281227	福田 理	正会員
2281148	佐々木 信行	正会員
3281215	古川 路明	正会員
3281680	山名 智	正会員



3282258	JENKINS,ROBERT	正会員
7281518	古宮 正利	正会員
8281362	小関 武宏	正会員
9281086	中島 隆	正会員
9282358	Bhattacharya, Partha	正会員
9282541	藤永 公一郎	正会員
9282598	安 瑾鎬	正会員

【会員種別変更】

(9月)

会員番号	会員名	変更前	変更後
6280505	鹿園 直建	一般正会員	シニア正会員

(10月)

なし

(11月)

8280482	齋藤 和男	一般正会員	シニア正会員
9282764	石田 章純	学生正会員	一般正会員

(12月)

81280458	落合 正宏	一般正会員	シニア正会員
7280199	兼岡 一郎	一般正会員	シニア正会員

2.8. 第5回地学オリンピックについて(丸岡評議員)

NPO法人地学オリンピック日本委員会から依頼があり、日本地球化学会会員に協力いただいた、第5回日本地学オリンピック(国際地学オリンピック2013インド大会 国内一次選抜)が12月16日に行われた。参加者は812名(申請者数は1,011名)、このうち予選成績優秀者60名が、3/24-26につくば市で行われる本選に進出。問題作成へのご協力に感謝する。<http://jeso.jp/about/sponsors/>に協賛団体として日本地球化学会が紹介されている。

2.9. その他

Geochemical Society(米国地球化学会)とのMOU(覚書)締結について(会長):GSからの提案に応じる形で大枠のみ記載したMOUを検討している。GC2016 については別途取り決める。将来は欧州地球化学協会(EAG)とのMOUについても進める。

2.10. 次回幹事会・評議員会予定

2013 年度第 2 回幹事会:5 月 25 日(土)12:00(午前中 GC2016 準備委員会)

第 2 回評議員会:6 月にメール会議として開催

(庶務幹事・豊田栄)